

岩木川治水史発刊によせて



東北地方建設局長 田 崎 忠 行

岩木川は、古くから洪水氾濫を繰り返し、沿川住民を苦しめてきました。また、多くの恵みをも与え、母なる川として親しまれてきました。

ご承知の通り岩木川の国直轄による本格的な治水事業は、大正7年12月に内務省秋田土木出張所岩木川改修事務所として開設されたのが始まりです。

それ以来80年、地元の方々の大変なご支援ご熱意により、改修が進み現在の岩木川があります。ここに改めて関係各位に対し、お礼申し上げます。

岩木川の治水の歴史を振り返りますと、冬の波による河口閉塞を何とか解消しようと先輩方が苦労に苦労を重ね、昭和21年によく完成した水戸口突堤工事、十三湖の圍繞堤工事など、改修は苦難の連続でした。まだ道半ばではありますが、改修が着々と進んできたことも先人達の努力の賜とっております。

現在、岩木川中流部の河道掘削及び築堤工事、津軽ダムの建設などを実施していますが、未だ治水及び利水においても十分な状態ではありません。

最近とかくダム建設の時代は終わったのではないか、あるいは、地方の公共事業は、無駄ではないかと言うような論調が一部に聞かれますが、この岩木川の80年の歴史を見ても、そのようなことは無いと確信しており、これからも一生懸命治水、利水のために努力して参りたいと思っております。

また、岩木川を中心として地域が地域づくりと言う観点で発展されていくことが重要と思っておりますので、地域の方々と連携を図り、一体となって努力して行きたいと思っております。

今後とも、皆様方のあたたかいご支援並びにご協力をよろしくお願いいたします。